

## 平成26年度「全国学力・学習状況調査」における

### 引野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
<ul style="list-style-type: none"><li>身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

##### (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

## 引野 中学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

### 1. 教科に関する調査結果の概要

#### ① 学力調査(国語A・B、数学A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
数学A	全国平均正答率を下回っている。
数学B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	数学A	数学B
平成24年度	本市	73.5	61.1	58.6	43.8
	全国	75.1	63.3	62.1	49.3
平成25年度	本市	74.7	65	60.3	38.2
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5
平成26年度	本市	77.2	47.6	62.4	54.4
	全国	79.4	51	67.4	59.8

#### ② 学力調査結果の分析

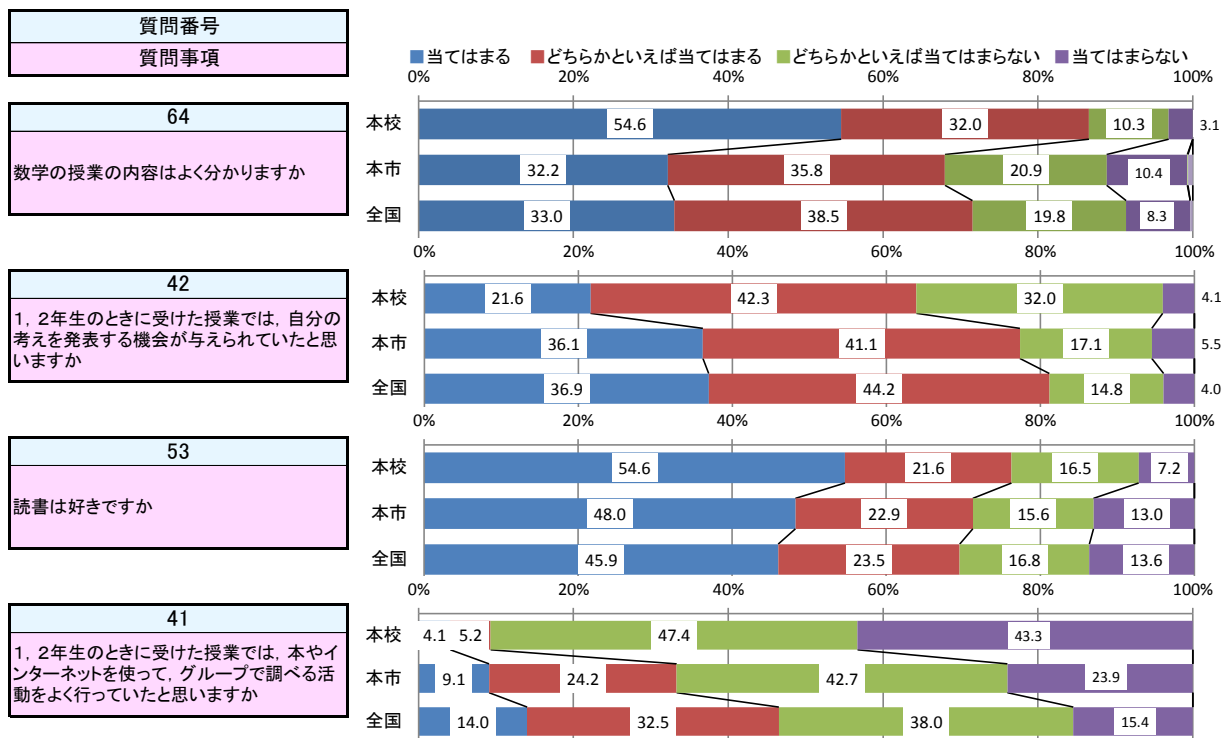
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均正答率を下回っており、昨年度よりもその差はやや広がった。</li> <li>・話すこと・聞くことに関しては、基礎的な力が身についている。</li> <li>・無解答率は昨年度に比べて大幅に減少した。</li> </ul>
	よくできた問題	・話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の正答率が低い。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均正答率を下回っており、昨年度よりもその差はやや広がった。</li> <li>・記述式の問題を答えることに課題がある。</li> <li>・無解答率は昨年度に比べて大幅に減少した。</li> </ul>
	よくできた問題	・文章に表れているものの見方について自分の考えをもつ問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く問題の正答率が低い。

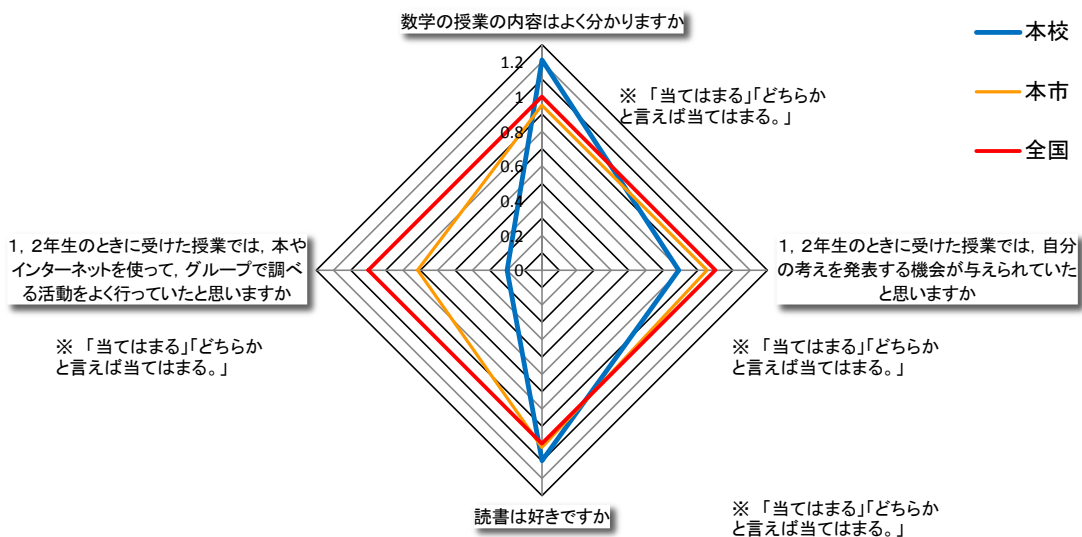
数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均正答率を下回っており、昨年度よりもその差はやや広がった。</li> <li>・関数に関する領域に関しては、基礎的な力が身についている。</li> <li>・無解答率は昨年度に比べて大幅に減少した。</li> </ul>
	よくできた問題	・樹形図を用いて確率を求める問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・数学的な技能に関する事項の問題の正答率が低い。

数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均正答率を下回っており、昨年度よりもその差はやや広がった。</li> <li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力に課題がある。</li> <li>・無解答率は昨年度に比べて大幅に減少した。</li> </ul>
	よくできた問題	・与えられた条件から角度を求める問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・与えられたグラフから事象に即して解釈する問題の正答率が低い。

### ③ 学校での学習状況に関する調査結果



### ④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

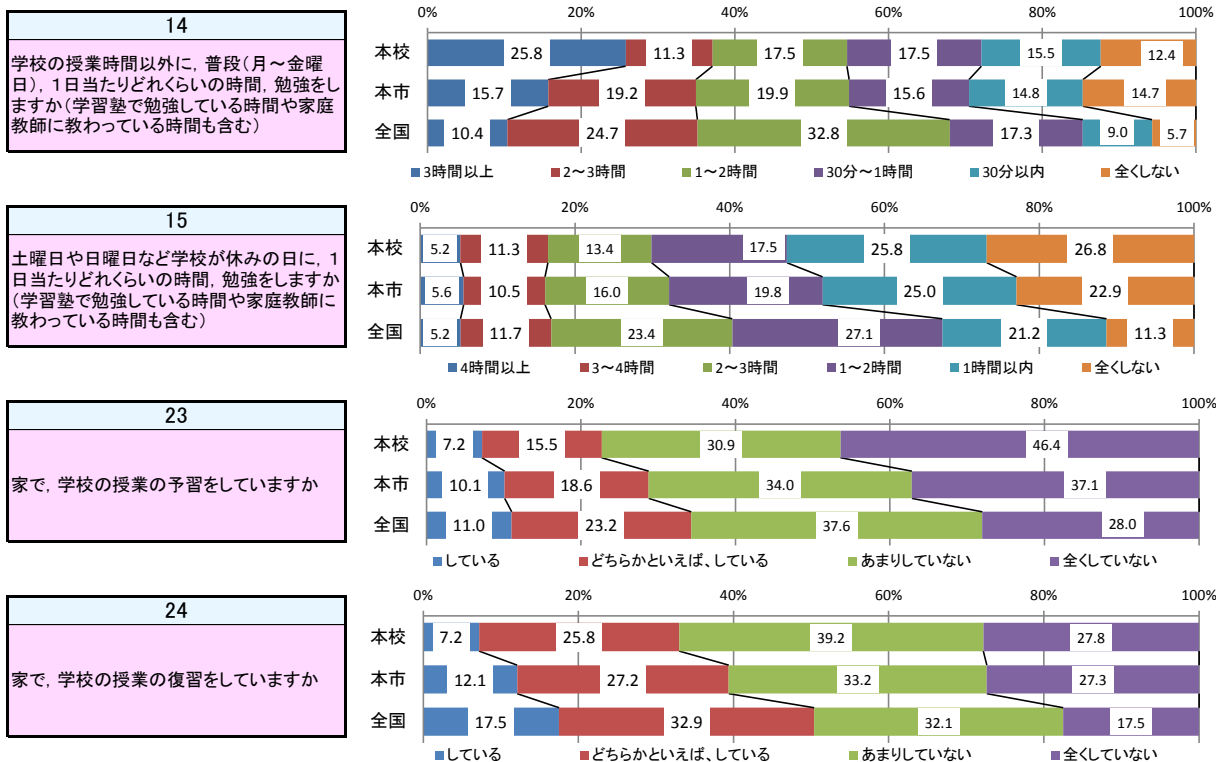


### ⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

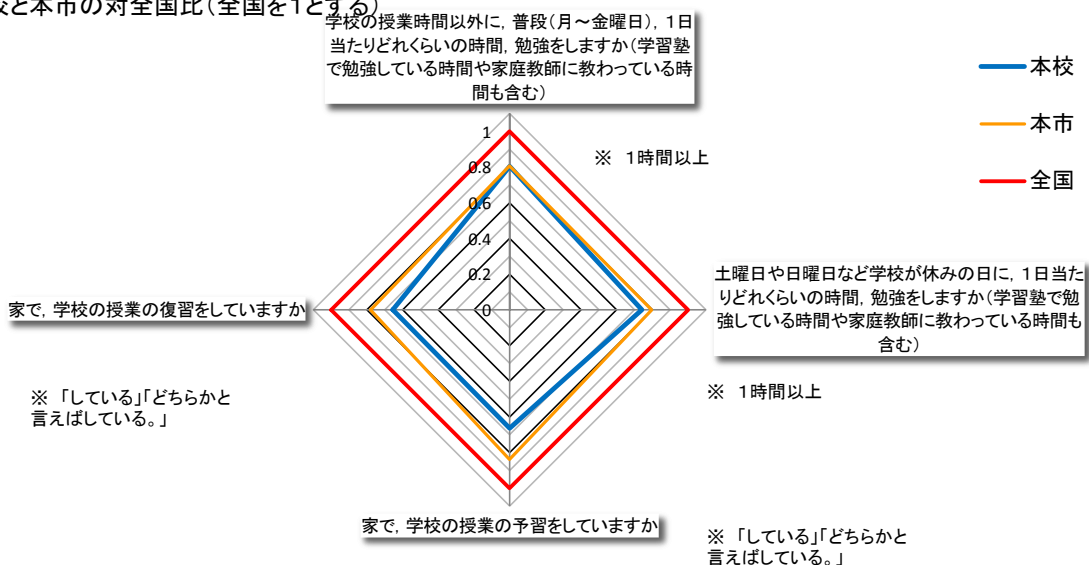
- ・自分の考えを発表したり、グループでの調べ学習を行ったりする授業が、全国平均と比較してもその差が著しく大きい。今後は発表する機会や調べ学習の機会を増やす授業を行っていく。
- ・数学の授業の内容がよくわかる生徒の割合が全国平均を大きく上回っており、わかる授業に向けての教師の意識改革が進んでいると考えられる。
- ・朝読書の取組が定着し、読書が好きな生徒割合が3年続けて全国平均を上回っている。今後は、朝読書の取組を発展させ、調べ学習や自分の考えを発表する機会を増やす方向へと繋げていく。
- ・学力調査の結果から、無解答率が昨年と比較して著しく低くなり、学習意欲の向上が見られる。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

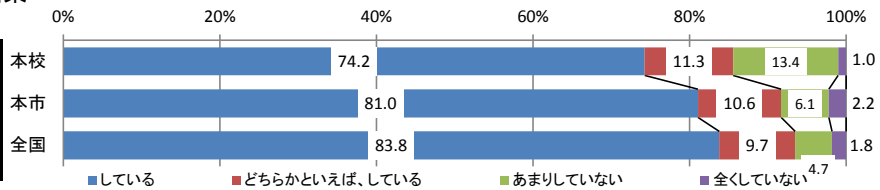


### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

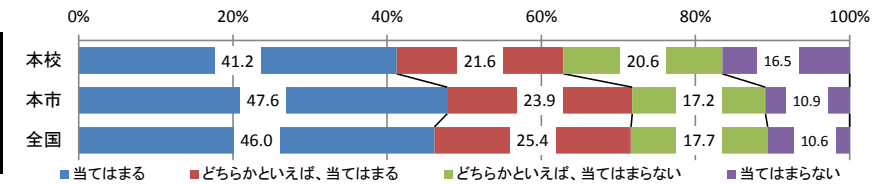
・家庭学習の時間を全国平均と比較したとき、3時間以上する生徒の割合は15.4ポイント上回っているが、全くしない生徒の割合が6.7ポイント上回っており、二極化が進んでいる。また、家庭学習の時間が1時間未満の生徒が45.4パーセント、家で授業の予習を全くしない生徒が46.4パーセントを占めており、家庭学習習慣の定着を図ることが課題となっている。

④ 生活習慣等に関する調査結果

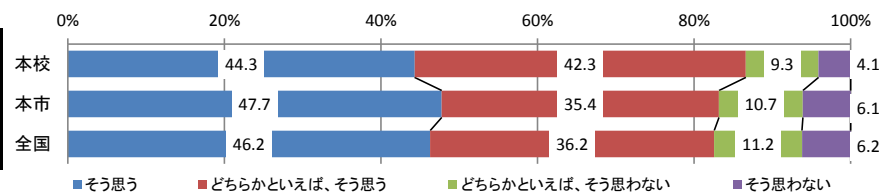
1  
朝食を毎日食べていますか



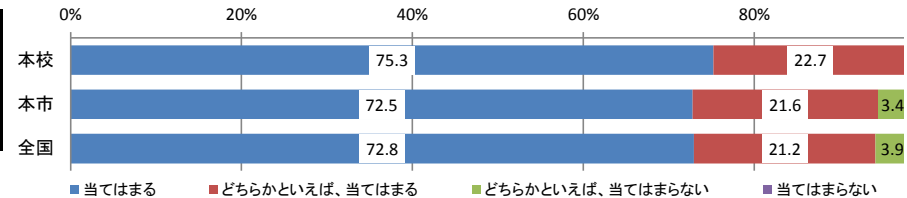
10  
将来の夢や目標を持っていますか



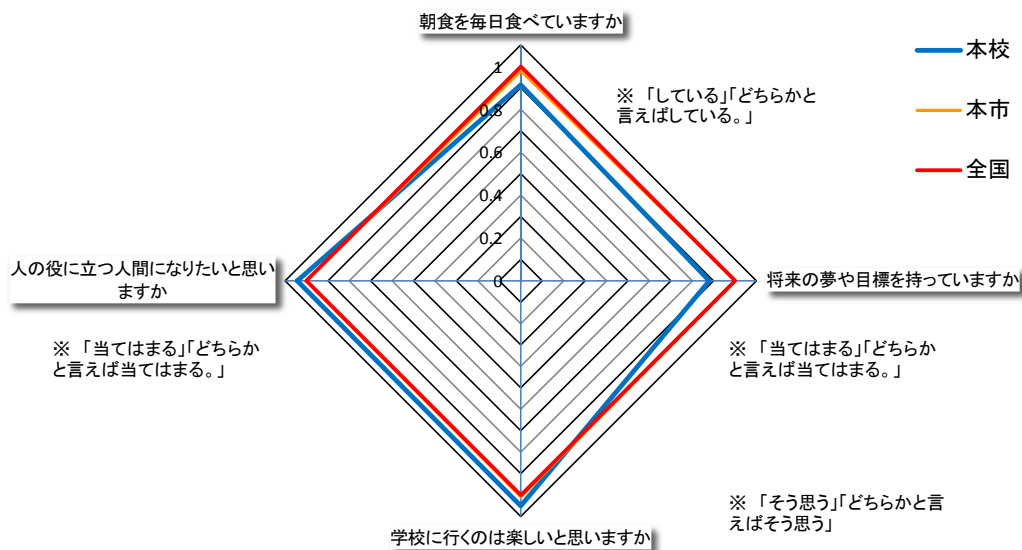
25  
学校に行くのは楽しいと思えますか



38  
人の役に立つ人間になりたいと思えますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

- ・朝食を全く食べない、あまり食べない生徒が14.4パーセントを占めており、この3年間で最大の数値となっている。
- ・将来の夢や目標をもっている生徒が全国と比べて少ない。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。
- ・人の役に立ちたいと思う割合が高く、その思いを将来の夢や目標に繋げる取組を実施する。
- ・全国、本市と比較しても学校に行くのが楽しいと感じている生徒の割合が多い。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上に関する係会議・学年会議・職員会議の定期的な実施
  - ・学力向上を推進するための指導計画の作成・実施・見直し・改善を行う。
- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
  - ・定期考査前に、生徒委員会活動によって予想問題を作成し、意欲の向上を図る。
  - ・定期考査終了後に、間違えた問題を攻略する〈定期考査完全攻略〉の実施する。
  - ・国語・数学の過去問題、アシストシート、単元別プリント等を入れておく棚や引き出しを職員室前に設置する。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
  - ・長期休業日に宿題として実施し、休み明けに点検し、課題を確認する。
- WEB問題の活用
  - ・WEB問題を授業の導入で使い、基礎・基本の徹底を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化
  - ・冬休み・春休みの宿題に、アシストシートや過去問題を活用する。
  - ・生活ノートや定期考査前の計画表を通じての家庭学習の支援を行う。
  - ・家庭学習マイスター賞への応募を行う。
- ◎ 家庭学習主体とした学習を支援する学力向上の取組
  - ・数学、英語、理科の家庭学習プリントを職員室前廊下の棚に準備する。
  - ・生活ノートを活用し、家庭学習を支援する。
- ◎ 「家庭学習の手引き」の作成
- ◎ 学校ホームページ、学校・学年・学級だよりを通して、家庭学習の重要性を保護者や地域住民に啓発する取組
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
  - ・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
- 朝食を毎日しっかり取る習慣づくりの保護者への啓発
  - ・保護者会や学校通信、学年通信等を通して啓発し、保護者の協力体制を強化する。